

科目分類	専門分野	学 年	3 年	担当教員の氏名・職名
授 業 科 目 名	看護の統合と実践 演習 (臨床判断実践/ 専門職連携)	学 期	後 期	青木 耕 (言語聴覚士) 中島 美和子 (看護教員)
		単 位 数	1	
		時 間 数	30	
目 的	<p>(臨床判断実践) これまでの学習を通して構築した倫理観と看護に対する考え方(看護観)をもとに、看護実践能力の主軸となる知識的側面と技術的側面の到達度を評価し、看護師としての課題を明確にする。</p> <p>(専門職連携) 2つ以上の専門職が協働とケアの質を改善するために、他領域の学生と共に学び、お互いから学び合い、お互いのことを学ぶ機会を持つ。他領域の学生と共に共同学習や演習を行う体験から、患者を尊重した治療・ケアの提供と専門職としての役割遂行ができるための連携と協働について学ぶ。</p>			
目 標	<p>(臨床判断実践)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師としての倫理観(看護倫理)に基づいた自己の看護に対する考え方(看護観)について考察できる。</li> <li>2. 事例患者のおかれている状況を考察し、援助を判断できる。</li> <li>3. 倫理観と看護に対する考え方(看護観)に基づき、判断した援助を行動化できる。</li> <li>4. 自己の看護実践の振り返りやグループワークを元に、自己の課題を明確にできる。</li> <li>5. 臨床に出て実施頻度の高い点滴・静脈注射の技術を高め、今後に対する自信を強める。</li> </ol> <p>(専門職連携)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種の役割と責務について、多職種と共有する。</li> <li>2. 多職種間のコミュニケーション能力をつける。</li> <li>3. 対象者志向の倫理観を持つ。</li> <li>4. 多職種で対象者の目標を共有する。</li> <li>5. 対象者の目標達成、ケアの質の向上にむけてともに深く考える。</li> <li>6. 多職種協働・連携・調整にむけての展望をともに語る。</li> </ol>			
授業計画	担当教員： 中島 美和子			
	臨床判断実践			
	回数	単元項目	内容	授業形態
	1	看護の基本となるもの	看護職と倫理 看護に対する考え方(看護観) 看護の3要素	講義
	2	事例提示 点滴・静脈内注射、採血の方法	事例への看護実践・看護技術演習 オリエンテーション 注射・採血デモスト	講義 演習
	3・4	課題学習 技術練習	事前学習内容に取り組む 点滴・静脈内注射(ワンショット)・採血の看護技術練習	個人ワーク 演習
	5・6	課題学習	事例に対する看護判断及び援助練習 記録用紙1・2(上半分)記載	個人ワーク
		技術チェック	課題学習と並行して、1人ずつ点滴・静脈内注射(ワンショット)の技術チェックをします。	演習
	7・8・9	看護演習	心筋梗塞事例への看護実践演習 採血の実施(モデル人形) 演習終了後、記録用紙2(下半分)記載	演習
	10	演習振り返り	患者の病態をどうアセスメントした? 心臓リハビリテーション時の看護 倫理的に大切なこと	個人ワーク グループワーク

	自己の課題の明確化	私の看護観は？ 倫理的に考えて何が大切か 知識は十分だったか 実践はうまくできたか 個人の課題を明らかにする ・記録用紙3 ・注射・採血振り返り用紙	個人ワーク
専門職連携			担当教員：青木 耕 中島 美和子
回数	単元項目	内容	授業形態
1	1. 多職種連携とは	1) 多職種の理解 ～互いの価値を認め合おう！～ 2) 多職種連携の形態 3) 多職種連携・協働の重要性と難しい理由	講義 グループワーク
2・3・4	2. 多職種と連携するために求められる能力 3. 事例検討 事例提示	1) 多職種連携コンピテンシー (1) 共通能力 (2) 協働的能力 (3) 専門職能力 2) 必要な知識と情報共有 3) 課題抽出 4) 目標共有 5) 発表	講義 グループワーク
5	4. 振り返り 5. 多職種連携・協働・調整に向けての展望をともに語ろう	1) 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師の強み・役割・専門性・限界 2) 多職種 連携・協働の推進 私たちがめざす多職種連携・協働のあり方 3) これからの社会はどのように変わっていくのだろうか それぞれの職種にこれから求められる役割はなんだろう 4) 専門職協働・連携・調整はどうあれば良いだろうか 5) 組織レベルでの変革にどう取り組んでいくか	グループワーク グループワーク
教科書	全ての教科書		
参考文献	その都度紹介します。		
評価方法	(臨床判断実践) 事例への看護実践は専用のルーブリック評価表を用いて評価を行う。 授業評価は、先述の看護実践評価を含めた総合評価表(ルーブリック評価)を用いる。 (専門職連携) 授業を通して学んだことを目標1～6に沿ってレポートにまとめ期日までに提出する。 「専門職連携」ルーブリック評価表を用いて評価を行う。 (臨床判断実践)6割、(専門職連携)4割の割合で最終評価とする。		
関連科目	全ての科目		
自己学習に関する指針	(臨床判断実践) これまで学習したことの総まとめ的な科目です。 看護技術についてはシミュレーション室や実習室等を使ってしっかり練習すること。		
その他の通知事項	グループ活動はそれぞれの役割をしっかりと果たして下さい。 事例に対する課題では、質問に随時応じます。		